

狩猟・漁労・採集に頼る暮らし

縄文時代の暮らしを発掘する

佐太講武の縄文人の生活

「貝塚」が語る縄文の暮らし

「メートル近く堆積したヤマトシジミの層。下の写真は、日本海側でもっとも大規模と言われる、八束郡鹿島町にある佐太講武貝塚の貝層です。」

一般に貝塚とは、縄文人が食べたあとの貝殻を、他の不要なものとともに長期にわたって捨てた場所であり、いわゆる「み捨て場」と言われています。しかし貝殻とともに丁寧に葬

られた人骨やイヌの骨が見つかることから、単なる「み捨て場」ではなかったようです。最近では貝塚は、自然の恵みに頼る縄文人が、食料の残りがすや動物の骨などを集めて、その霊を祀り、再生を祈った「祭りの場」であったとする考えもあります。

鹿島町の教育委員会で行われた調査やその後の整理の様子を通して、明らかになってきた五〇〇年前の縄文人の生活を探ってみましょう。

写真提供：山本 清氏



昔の貝層
昭和12年ごろの様子。貝層が露出しているのがわかる。



現在の貝塚周辺
江戸時代の開削でできた佐陀川が貝塚の中央を流れる。周辺は、佐太神社・鹿島中学校がある田園地帯。

掘り出された貝層
大量のヤマトシジミに混じって、縄文土器や石器が見られる。はぎ取られた7mにおよぶ貝層は、鹿島町立歴史民俗資料館に展示・保管されている。

「掘る」「洗う」「分ける」佐太講武の縄文人の生活がわかるまで

一九九二・九三年度の調査では、見つかった貝層は、すべて土のう袋に入れて持ち帰られました。その数は、約一〇〇〇袋にもなります。これらの資料は、鹿島町立歴史民俗資料館で水洗い・選別等の作業を経ました。こうした作業が根気強く行われることによって初めて、当時の縄文人の生活が明らかになるのです。

調査の流れ

1. 貝層の上面まで掘る
田んぼを20～30センチほど掘り下げると、そこから貝層が姿を現します。



2. 貝層を掘る
まず試し掘りをして、貝層の全体像をつかみます。その後いくつかの区域に分けて掘り、それぞれの区域ごとに土を採取します。



3. 見つかった土器などを記録する
土器や石器が出た様子は、図面や写真に記録します。



4. 貝層をはぎ取る
堆積した貝層を展示・公開するために、現地で特殊な薬を塗り、貝層をはぎ取ります。



整理の流れ

1. フローテーションする
まず発掘調査で採取した泥を水につけ、種子など水に浮くものを拾いあげます。



2. 水洗いする
フローテーションしたあとの泥は上から水を流し、5ミリ・3ミリ・1ミリの目のふるいにかけます。



3. 選別・乾燥する
各ふるいごとに分け、乾燥させます。5ミリではシジミの殻、3ミリ・1ミリでは魚の骨が多く見られます。



4-1. 骨を分類する

ふるいに残った骨は、魚の種類ごとに分けていきます。分類をされた作業員さんの声。「発掘された魚の骨は、薬品を使って骨だけにした現在の魚の骨と見比べて分類していきます。とくに難しいのは、せきついの分類ですね。また、うるこがきれいのまま出たときは驚きました。」



4-2. 種子を分類する

見つかった植物の種子は、顕微鏡や図鑑を使ってどんな樹木の種子か判定します。胞子まで見つけることができます。



鹿島町立歴史民俗資料館



佐太講武貝塚で見つかった縄文土器と石器

貝塚からは、縄文人が捨てた貝殻に混じって、土器や石器が見つかります。

すりいし 磨石と石皿
木の実をすりつぶす道具。縄文人は、木の実や草、木の根・茎・葉を好んで食べた。